

報道関係各位

平成30年1月25日

【イベント開催告知／取材案内】

国文学研究資料館・茨城大学 ICAS 共同研究シンポジウム
—歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究成果を報告—

日時 2月5日(月) 13:00~15:00 会場 茨城大学水戸キャンパス図書館3階ライブラリーホール

人間文化研究機構 国文学研究資料館(東京都立川市/館長:ロバート キャンベル)と茨城大学地球変動適応科学研究機関(略称 ICAS、機関長:伊藤哲司)は、平成30年(2018年)2月5日(月)、歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた共同研究にかかわるシンポジウムを、茨城大学水戸キャンパスの図書館3階ライブラリーホールで開催します。参加無料、申し込み不要です。

両機関は、2015年の関東東北豪雨で被災した歴史史料の修復作業をきっかけに交流を開始し、昨年(2017年)5月に連携協定を締結しました。国文学研究資料館では、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画(歴史的典籍NW事業)」のもと、膨大な古典籍の新たな活用を推進しています。また、茨城大学 ICAS においては、気候変動の影響予測や災害等のリスクに対する具体的な適応策について、自然科学・社会科学の垣根を越えた研究を進めてきました。この両者の連携により、歴史史料を過去の気候や災害の対応の記録として活用し、気候変動の将来予測や減災・防災に役立てる研究に取り組むとともに、新たな研究分野の創成を目指しています。今回のシンポジウムは、その最新の成果や取り組みについて両機関の研究者が報告し、議論を行うものです。

シンポジウムでは、両機関の共同研究の意義を紹介した上で、茨城大学の小野寺 淳 教授、国文学研究資料館の岩橋 清美 特任准教授、茨城大学の野澤 恵 准教授・宮崎 将さん(学生)の3組がそれぞれ講演します。これらの講演では江戸~明治期の史料を具体的に取り上げ、当時の災害の状況や気候をどのように読み解けるか、さらに、それらの情報を自然科学的な研究や減災、気候変動への適応策の検討にどのように活かせるかを考えます。

このうち、茨城大学の野澤准教授と学生の宮崎将さんの報告では、土浦市立博物館が所蔵する「家事志」という史料をもとに1826~1858年の茨城・土浦の気候情報を復元する研究を紹介します。同史料はこれまで気候の記録としては活用されておらず、また、当時のこの地域の毎日の天気に関する情報は今まで得られていなかったため、貴重な研究だといえます。

本シンポジウムにつきまして、開催案内のご紹介や当日の取材のご検討をいただきますようお願いいたします。

【報道関係のお問い合わせ】

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室 古典籍共同研究係(立川市緑町10-3)
担当:神谷
TEL:050-5533-2988 FAX:042-526-8883
E-mail:cijinfo@nijl.ac.jp

茨城大学 広報室(水戸市文京2-1-1)
担当:山崎
TEL:029-228-8008 FAX:029-228-8019
E-mail:koho-prg@ml.ibaraki.ac.jp

●国文学研究資料館・地球変動適応科学研究機関 共同研究シンポジウム
「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成」

[日時] 平成30年2月5日(月) 13:00~15:00 (開場 12:30)

[場所] 茨城大学水戸キャンパス 図書館3階ライブラリーホール (水戸市文京 2-1-1)

[プログラム・概要]

開会 「国文学研究資料館との共同研究とは」小荒井 衛 (茨城大学 理学部 教授)

講演

①「災害と絵図・明治期の統計—富士川絵図と内務省土木局河川調査書を中心に—」

小野寺 淳 (茨城大学 教育学部 教授)

前近代の水害の概況を知るための史料として、河川絵図と府県河川調査書があります。前者は博物館等の所蔵機関で紹介されるようになり、中には水害と関連した絵図も多く見られます。後者は明治25年から32年までに本州・四国・九州の各府県が管轄する河川の舟運や水害などの概況を編纂した調査書ですが、一般にはあまり知られていません。今回は、安政4年から6年に描かれた富士川絵図と「富士川流域河川調査書」を紹介します。

②「異分野融合研究における近世災害関係史料の可能性」

岩橋 清美 (国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター 特任准教授)

絵画史料などの古文書に記されている江戸時代の多摩川流域の自然災害について、被害の実態や人々の避難の様子、被害を最小限に抑えるための工夫などについて紹介し、異分野融合研究の可能性について考えます。

③「茨城県内の歴史資料による科学研究への活用提案」

野澤 恵 (茨城大学 理学部 准教授)・宮崎 将 (同4年生)

今回報告する研究は、土浦市立博物館が所蔵する「家事志」という書籍に記された茨城・土浦地域の毎日の天気(1826~1858年)の記録から、当時の気候を推定するものです。この時代の茨城県内の気候情報の復元という点でも、「家事志」を天気の記録として参照する点でも、新たなアプローチといえます。

総合討論 モデレーター：添田 仁 (茨城大学 人文社会科学部 准教授)